

宇部市・山陽小野田市 水道事業広域化研究会

研究会活動期間
平成25年7月31日～平成26年7月31日

水道事業者が直面する課題等

■ 水道の特性

水道水は、それぞれの地域でつくり、その地域で利用される地域性の強いもので、**域産域消**と言われ、水道は、その地域で支える重要な生活インフラである。

■ 水道の現状

人口減少、節水型社会への移行等により

水道使用量の減少＝料金収入の減少

という構図が続いている。

■ 水道の課題

水道事業者は、将来にわたり**持続可能**な水道インフラを再構築していくことが強く求められている。

水道インフラを再構築する

- 再構築の手法として、水道広域化を検討すべきという両市の考えが一致し、**水道事業広域化研究会**を設置した。
- 両市は、隣接市というだけでなく、同一の**厚東川**が主な水源であり、この地域特性に着目した。
- 平成25年7月31日
 - ・水道事業の広域化の研究に関する覚書を締結
 - ・中堅職員による水道事業広域化研究会を設置
- 平成26年7月31日
 - ・水道事業広域化研究会報告書を作成

水道事業広域化研究会の概要

- 研究会の役割
 - ・両市の現状把握と評価分析
 - ・将来的な広域化のあり方の研究
- 研究会の構成
 - ・両市それぞれ4名ずつ、計8名
 - ・総務、営業・業務、工務、浄水の職員、両市1名ずつ
- 研究会の活動
 - ・研究会開催: 10回
 - ・他都市調査: 2都市
 - ・水道事業セミナー(官民連携・広域化)参加: 1回

水道事業広域化研究会の研究内容①-1

■ 両市の現状把握と評価分析

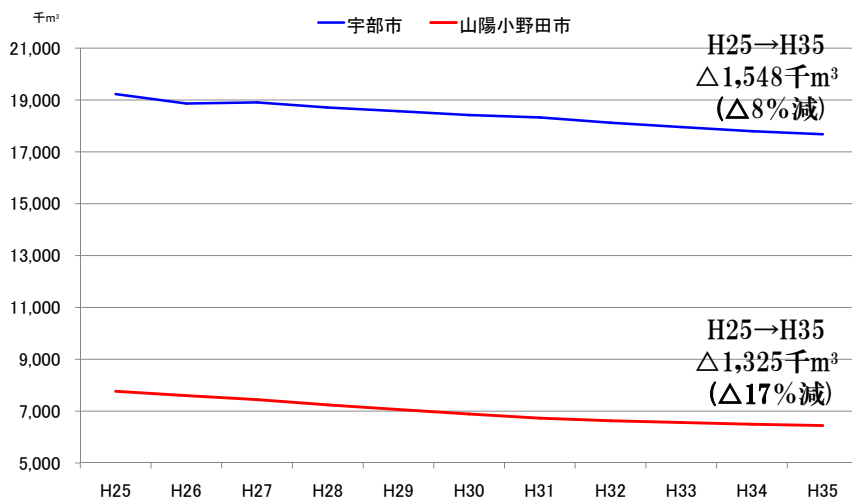
平成26年度末現在

項目	宇部市	山陽小野田市	備考
行政区域内人口(A)	169,821人	64,433人	減少傾向 
現在給水人口(B)	168,687人	63,978人	減少傾向 
普及率(B/A)	99.3%	99.3%	
配水能力(C)	120,000m ³ /日	48,230m ³ /日	
一日最大配水量(D)	63,420m ³	30,220m ³	減少傾向 
最大稼働率(D/C)	52.85%	62.66%	減少傾向 
水道料金(税込) (家庭用10m ³ /月) (家庭用20m ³ /月)	1,220円 3,034円	1,555円 2,851円	

水道事業広域化研究会の研究内容①-2

■ 有収水量の予測

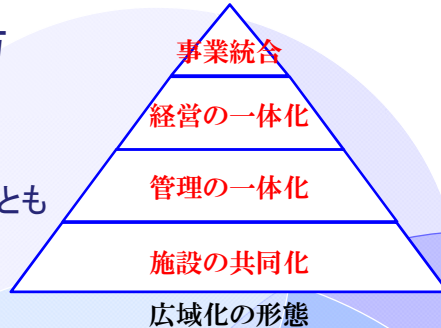
水道料金では
約2億円以上減収



水道事業広域化研究会の研究内容②

■ 将来的な広域化のあり方

- ① 広域化の形態により
事務手続が異なる。
- ② 広域化の最終形態を待たずとも
業務の共同化はできる。
- ③ 広域化は一日にしてならず。
短期・中期・長期でロードマップを作成する。
- ④ 広域化の最大のメリットは**浄水場の統廃合**である。
- ⑤ 業務の共同化=**お客様サービス向上、業務の効率化**



水道事業広域化研究会の研究結果①

■ 浄水場の統廃合



浄水場の適正配置・最適な箇所数、連絡管の布設、財源の確保

水道事業広域化研究会の研究結果②

■ 業務の共同化

- ① 水質検査体制の共同化
- ② 給水装置関連業務の共同化
- ③ 人材育成の共同化
- ④ 管路管理体制の共同化
- ⑤ 業務システムの共同化
- ⑥ 調定収納業務の共同化

お客様サービス向上、業務の効率化、技術・事務継承、資産の有効活用、経費削減、関連業者への対応向上等

水道事業広域化研究会からの提言



水道事業広域化研究会の報告内容をもとに

水道事業広域化検討委員会において

- 水道事業広域化に関する**基本的事項**
- 水道事業広域化に伴う**課題**に関する事項

を協議していく。